

## はじめに

「自ら学びを追究する子どもの育成」を研究主題として、ふり返りを大切にした授業実践に取り組んで2年が経ちました。わずかずつですが、ふり返りを通して学びを深めている子どもたちの姿が見えるようになってきました。

4年生の国語 「南吉さんの世界を語ろう」の【ふりふり】から

Aさんのまなふりの『「青いけむりが」から、冷たい風景が広がってそこから兵十とごんは、(ごんが死んでしまった)今友達になり、仲良くなった。』とあって、そういう読み方があるってすごく勉強になった。

子どもたちは、単元の途中でこれまでのふり返りをふり返る【ふりふり】ことで、新たな気づきをしたり、自分の考えの変化や深まりを実感したりすることができるようになりました。

5年生の図工 「あっ！さーひーにゃんアイスクリーム」の【ひろふり】から

このアイス作りを通して、アイス屋さんはただおいしいものを組み合わせて客に提供しているのではなく、見栄えなどでも手を抜かずにやっているのかなと考えるようになりました。なぜなら、色の組み合わせが適当なものだと味はおいしくても、ぱっと見て食べる気になれないし、印象も悪いからです。そして、「誰に」どんな「思い」をのせて作るかを考えることで、色のイメージもそれによって変わるかなと思いました。

単元の目標を意識して学習全体をふり返る【ひろふり】ことで、学習内容を体系化することができ、生活の場面やこれからの学習に活用する視点をもつことができるようになりました。

このように、本校の研究は、一步一步前進しておりますが、深めていくのはこれからであります。みなさまから忌憚のないご意見をいただき、来年度の研究発表会に向けて役立てていければと考えておりますので、ご指導をお願いいたします。

末尾になりましたが、本校の研究のために、温かく丁寧にご指導いただきました愛知教育大学の中村僚志先生をはじめ、関係の先生方に心からお礼申し上げます。

令和6年3月

校長 榊原和憲

# 第1学年 算数科「かたちのくにのミッションをクリアして かたちをとりもどそう（かたちづくり）」

## 1 単元目標

- ・ 色板や棒などを使っていろいろな形が構成されていることを理解し、いろいろな形をつくることができる。 (知識及び技能)
- ・ 色板を並べる中で、三角の色板2枚でできる四角が方眼の1ますに当たることに気付いたり、棒の数や位置関係などに着目しながら棒を並べたりするなど、図形についての基本的な見方・考え方を身に付けている。 (思考力、判断力、表現力等)
- ・ 色板や棒などを使っていろいろな形を作ることに興味・関心をもち、意欲的に取り組もうとする。また、学習のふり返しから、学んだことやできるようになったことを明らかにし、新たな課題に取り組もうとする。 (学びに向かう力、人間性等)

## 2 目指す子ども像

1年生の子どもたちは、図工の時間や休み時間に、折り紙を折ったり、重ね合わせたりするなどの活動をふだんの生活や学習、遊びの中で経験している。1学期に行った「いろいろなかたち」の単元では、箱を積み重ねたり、面を写し取ったりする活動を通して、立体図形の特徴を捉えることができた。そして、それらの特徴を基に立体図形を比較・分類する活動を通して、ものの形の大体を捉えることができるようになってきた。しかし、形の大きさや向きによっては、正しい分類が難しい子どもも多く、学習の中で自信をなくしてしまう子どももいた。本単元では、色板や棒を使って、つなげたり、向きを変えたり、さまざまな操作活動をする中で、子どもたちの図形を構成する力と観察する力を高めていきたい。また、毎時間のふり返しから、分かったことや見つけたことを明らかにしたり、ふり返りのふり返し（ふりふり）から、学びを共有しこれまでの学びを整理したりすることで、自らの成長に気づき、学んだこと生かすことができるようにしたい。

## 3 具体的な手だて

### (1) 単元に関わる自作の物語

単元名を「かたちのくにをつくろう」と題し、単元の導入や中盤、終末などの要所において「かたちのくに」の自作の物語を使うことで、子どもたちが意欲的に学習できるようにする。

### (2) 授業の足跡の提示と紹介

毎時間の授業のめあてや板書、子どものふり返し、子どもが作った形など、まとめた授業の足跡を教室側面に掲示する。また、その掲示の内容を次時の授業の導入で紹介する。特に、ふり返しを紹介する際には、形の組み合わせ方や形の特徴について書かれているものを主に取り上げていくようにする。そうすることで、子どもたちが分かったことや見つけたことを明らかにしながら、図形を構成する力と観察する力を高めていくことができるようにする。

### (3) 学びを生かすことができる場をふりふり直後に設定

単元の中盤に、ふりふりを行い、これまでの学びを確認する。その直後に、学びを生かすことができる場を設定することで、自分の学びを確かなものにし、成長を感じたりできるようにする。

## 4 単元観

「かたちづくり」の学習では、色板や棒などを使っていろいろな形が構成されていることを理解し、主体的に形作りに取り組むことができるように単元の構成を工夫する。具体的には、単元名を「かたちのくにをつくろう」と題し、導入では、教師が「かたちのくに」の自作の物語を読むことで、子どもたちが意欲的に学習できるようにする。「かたちのくに」の失われた形を取り戻していくというストーリーに沿って、子どもたちには教科書の課題を「ミッション」として与えていく。授業の終末では「かたちづくりをして、わかったこと、見つけたこと」というテーマでふり返り（まなふり）を書き、前時の復習と次時の導入に活用する。

単元の中盤に、ふり返りのふり返り（ふりふり）をする場を設定する。この場では、色板や棒を並べるといろいろな形ができることや、それらの形の中には三角や四角が隠れていることなど、各時間のまなふりで出た子どもたちの学びを確認していく。そして、その直後に、これまでの学びを生かすことができる場を設定することで、子どもたちの学びを確かなものにし、分かるようになったことや、できるようになったことなど、自分の成長を実感できるようにする。

単元の終末には、学びをひろげるふり返り（ひろふり）の場として、子どもたちが自由に形作りをすることができる時間を設定する。子どもたちは、色板や棒を使って、三角や四角などを組み合わせながらさまざまな形を作っていくだろう。その中で、これまでの学びを生かし、広げていく姿を期待したい。

時	学習内容と活動
1	<p>○「かたちのくに」の物語を聞く。</p> <div data-bbox="247 1070 1066 1108" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>ミッション1：ならべかたを かんがえて かたちを つくろう</p> </div> <p>○見本の形を見て、何の形に見えるか考える。</p> <p>○色板を並べて、形を作り、作り方や気付いたことを発表する。</p> <p>「△をまわして、むきをあわせるとつくりやすくなる」</p> <div data-bbox="255 1288 1423 1545" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p><b>④ △をならべて、かたちづくりをして、わかったこと・見つけたこと</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・△で、△や□が作れることがわかった</li> <li>・おなじものでも、やりかたをかえると、ちがう大きさになることがわかった</li> <li>・△で、いえやかざぐるまが、作れる</li> <li>・△をつかって、いろいろなかたちがつくれる</li> </ul> </div> <div data-bbox="255 1568 678 1982" style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>→教室側面に掲示する授業の足跡には、資料1のように、めあてや板書、子どものふり返りを載せる。また、ふり返りについては、形の組み合わせ方や形の特徴について書かれているものを主に取り上げていくようにする。</p> </div> <div data-bbox="694 1568 1005 1982" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>じゅぎょうのおしあと <b>かたちのくにをつくろう</b></p> <p>ミッション1： △のならべかたを かんがえて かたちを つくろう</p>  <p>まなびのふりかえり（まなふり）</p> <p>テーマ：いろいろな形を、ならべて かたちづくりをしてわかったこと・見つけたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・△で、△や□が作れることがわかりました</li> <li>・おなじものでも、やりかたをかえると、ちがう大きさになることがわかりました</li> <li>・△をまわして、むきをあわせる</li> <li>・△で、いえやかざぐるまが、つくれる</li> <li>・△をつかって、いろいろなかたちがつくれる</li> </ul> </div> <div data-bbox="1021 1568 1444 1870" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">  </div> <div data-bbox="1021 1881 1444 1982" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>上 作った図形の掲示 左 (資料1) 授業の足跡</p> </div>

2 ○授業の足跡から前時までの学びを確認する。

ミッション2：かげえに ぴったり あう  $\triangle$ のならばかたを かんがえよう

○影絵を見て、何の形に見えるか考える。

○それぞれ何枚で作れるか考える。

「かげえに、せんをひくと、 $\triangle$ がなんこいるか、わかりやすくなる」

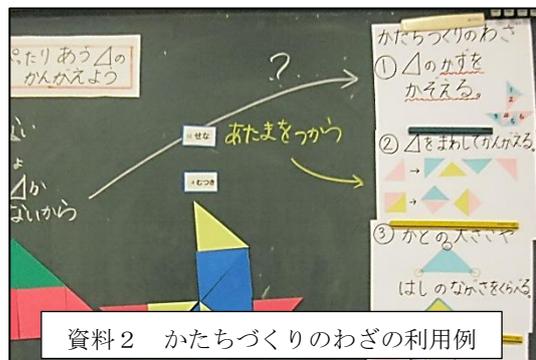
○色板を並べて、形を作り、作り方や気付いたことを発表する。

④  $\triangle$ のならばかたをかんがえて、かたちづくりをして、わかったこと・見つけたこと

- ・かげえは、せんをたて、よこ、ななめにひくとつくりやすくなることがわかった
- ・さかなや大きな山に、いえがかくれていた

せんはかいだけ「わからなかつたけど」せんをかきわけてせんをかいたらできました。 子どものふり返り

→子どもたちの気付きやふり返りから、形作りに関わるものを「かたちづくりのわざ」として黒板右端に掲示しておくことで、子どもたちの操作活動や発言の際の支援に使用する。資料2では、子どもの「あたまをつかう」という発言に対して、具体的な操作方法を引き出す際に使用した。



3 ○授業の足跡から前時までの学びを確認する。

ミッション3：ぼうのかずを ぴったりにして おなじかたちを つくろう

○見本の形を見て、何の形に見えるか考える。

○棒を並べて、を作り、作り方や気付いたことを発表する。

「よこむきのさんかくや、はんたいむきのさんかくがある」

④ ぼうをならべて、かたちづくりをして、わかったこと・見つけたこと

- ・ぼうでも、さんかくやさかく、いろいろなかたちをつくれることがわかった
- ・さんかくやさかくをくみあわせると、さかなやかざぐるまをぼうだけでつくれる
- ・ぼうでつくったかたちに、せんを入れれば、 $\triangle$ がでてくる

→子どものふり返りは、資料3のように「かたむける」や「ばしょ」など、形作りのキーワードとなる言葉に下線を引いて強調したり紹介したりする。

3 ミッション3： ぼうのかずを ぴったりにして おなじかたちを つくろう  
まなふりのテーマ： ぼうをならべて かたちづくりをして わかったこと・見つけたこと  
ぼうをかたむけるわざ  
やるやばしょに気をつけて  
やるて、できました。

資料3 形作りのキーワードとなる言葉に下線を引いて強調した子どものふり返り

4 ○「かたちのくに」の王からの手紙を読む。

→授業の導入で、資料4のような「かたちのくに」の王からの手紙を読むことで、子どもたちが楽しみながら学習できるようにした。また、新たなミッション（課題）をクリアするために、ふり返りのふり返しをするというように、学びの確認をすることが子どもたちにとって自然な流れになるようにした。

資料4 かたちのくにの王からの手紙

これまでに 3つの ミッションを  
クリアしてくれたことで  
かたちのくににも  
山や木、いえ、かざぐるま、ふね、さかな など  
たくさんの かたちも もどってきた  
  
ほんとうに ありがとう  
  
さて きょうの ミッションは  
すこし むずかしいものとなる  
  
まずは  
これまでの学びを ふりふりで しっかりとかくにんし  
ミッションに立ちむかって ほしい



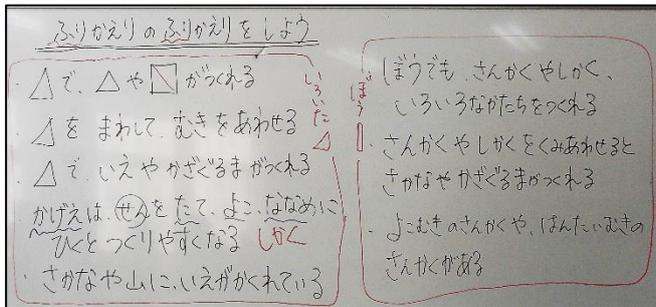
ふりかえりのふりかえりをしよう

【ふりふり】

○△を使った形作り、棒を使った形作り、それぞれの学びを確認する。

「かげえでは、せんを入れることで、△のおきかたがわかりやすくなった。」

→授業前半のふり返りのふり返りでは、資料5のように黒板の右側にホワイトボードを設置することで、子どもたちから出た意見をいつでも確認でき、操作活動の際には、形作りの技として使えるようにした。



資料5 黒板の右側に設置したホワイトボードの様子

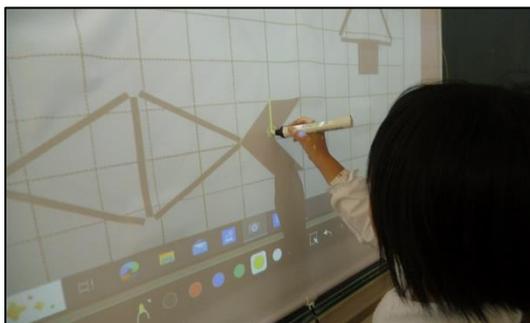
ミッション4：いろいろなぼうをくみあわせてかたちをつくらう

○見本の形を見て、何の形に見えるか考える。

○色板と棒を組み合わせて、形を作り、作り方や気付いたことを発表する。



資料6 色板と棒の課題を混ぜた課題を解く様子

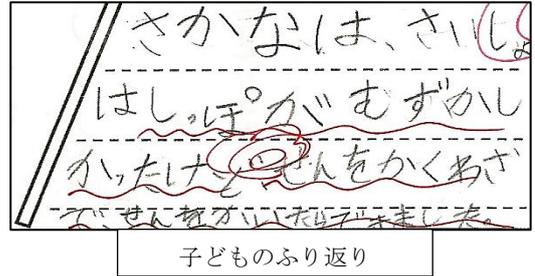


資料7 これまでの学びを生かして解く様子

→資料6の見本の形のプリントのように、第1・2時の色板の課題と第3時の棒の課題を混ぜた課題を提示し、これまでの学びを生かすことができる場を設定した。子どもたちは、資料7のように「かげえにせんを入れる」など、これまでの学びを生かすことができた。

④ これまでの学びで、生かすことができたことや、これまでできなかったことができるようになったこと

- ・ぼうといろいろのくみあわせでも、これまでとおなじかたちがつくれる
- ・さかなをつくるとき、さんかくをよこ・よこにつなげていることがわかった
- ・ぼうといろいろのくみあわせでも、かげえとおなじで、せんを、たて・よこ・ななめに入れることがわかった



子どものふり返り

5 ○授業の足跡から前時までの学びを確認する。

ミッション5：てんを きめて せんで つないで、かたちを つくろう

○見本の形を見て、何の形に見えるか考える。

○点を線でつないで、形を作り、作り方や気付いたことを発表する。

「たいようのなかに、ななめのしかくがはいっている」



資料8 第5時の板書

→資料8の板書のように、子どもたちは、線をつないだ形の中に、「さんかく」や「しかく」、「いえ」など、これまでに学んできた形をたくさん見つけ出すことができた。

⑤ てんをつないで、かたちづくりをして、わかったこと・見つけたこと

- ・てんつなぎで、たいようやチューリップがつかれることがわかった
- ・たいようやチューリップに、しかく・いえ・さんかくがかくれている

6 ○授業の足跡から前時までの学びを確認する。

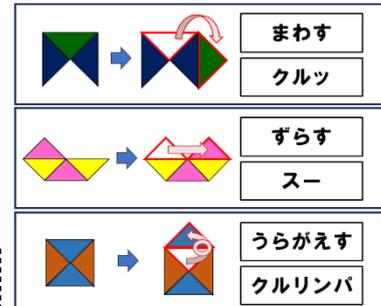
ミッション6①：いろいろの うごかしかたを かんがえよう

○形のビフォーアフターを見て、どの色板が動いたのか考える。

○「三つの操作」と動きを確認する。

○三つの形について、どの色板をどのように動かしたのか考え、発表する。

→資料9のような掲示を用いて、「クルツ」など、色板の動かし方の特徴となる言葉で言い換えて分かりやすくする。



資料9 色板の動かし方の掲示

ミッション6②：どの ぼうを とるのか かんがえよう

○棒で作った形のビフォーアフターについて、どの棒を取ったのか考え、発表する。  
「8のまんなかのぼうを一本とって、0にします」

④ ▲やぼうをうごかして、かたちをかえてみて、わかったこと・見つけたこと

- ・さんかくをずらしたり、まわしたり、うらがえしたりすると、ちがうかたちができる
- ・ぼうを一本ぬいただけなのに、いろいろなものがつくることがわかった

7

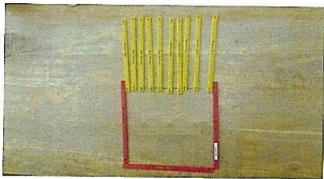
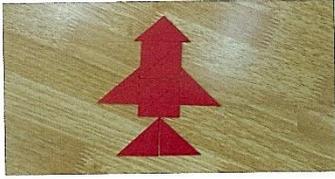
これまでの学びをふりかえろう

【ひろふり】

ミッション7：これまでの学びを 生かして いろいろな かたちを つくろう

○好きな形を作り、作った形の名前や工夫したところを発表する。  
「ぼうをつかって、よこむきのさんかくをつなげて、リボンをつくりました」  
「いえのかたちをつかって、ロケットをつくりました」  
○これまでの学びを、どのようなところに生かすことができたかを発表する。

⑤ これまでの学びを、どのようなところに生かすことができたか

○じぶんが つくった かたち	資料 10 子どものふり返り	かたち
		
○つくった かたちの せつめい		○つくった かたちの せつめい
かたちの なまえ <u>ぼうでし。</u>		かたちの なまえ <u>ひこうき</u>
これまでに 学んだことを どんなところに つかいましたか		これまでに 学んだことを どんなところに つかいましたか
<u>ぼうでしは、しつがし、かくてうえ</u> <u>の、ぶぶんが、まいるで、ほそが</u> <u>かくて、あいらいそうにしよいた。</u>		<u>ひこうきを、さんかくと、し、かくて、しつ</u> <u>をつたり、さんかくと、かくて、うへ</u> <u>かくをつくら、ひこうきをつくりました。</u>

→資料 10 のように、ポテトの箱を四角で作ったり、三角の色板を組み合わせ、三角や四角を作って飛行機を作ったりするなど、これまでの学びをしっかりと生かしていた。

5 成果と課題

- 単元を通して「かたちのくに」の物語を行ったことで、子どもたちは楽しみながら学習できただけでなく、授業の足跡に自分たちの作った形が増えていくことが、子どもたちの達成感となっていた。
- ふり返りのふり返りの直後に、学びを生かすことができる場を設定したことで、今まさに確認したばかりの学びをすぐに試すことができ、確かな学びや、自己の成長の実感につなげることができた。
- ふり返りのふり返りと、学びを生かすことができる場を同じ時間に設定することは可能であったが、十分な操作活動の時間や、ふり返りの時間の確保など、時間配分が難しかった。

## 第2学年 算数科「2年クエスト～『形の村のピンチをすくえ!』～（三角形と四角形）」

### 1 単元目標

- ・ 三角形、四角形、及び、直角三角形、長方形、正方形の意味を理解し、これらを弁別できる。  
(知識及び技能)
- ・ 三角形、四角形の弁別について、辺や頂点などの構成要素に着目して考えることができる。  
(思考力、判断力、表現力等)
- ・ いろいろな三角形や四角形をつくったり、身の回りから見つけたりしようとする。  
(学びに向かう力、人間性等)

### 2 目指す子ども像

子どもたちは、これまで第1学年「いろいろなかたち」や「かたちづくり」で形をノートに写し取ったり、色板を使っていろいろな形を作ったりする活動をしている。また、生活経験から、感覚的・視覚的に、おむすびは三角、箱は四角と捉えることができている。本学年では、前学年での図形学習を踏まえ、ふり返しシートや「形の村のピンチをすくえ!」ブックを活用することで、三角形や四角形の構成要素に目を向け、三角形や四角形の定義を理解し、その定義に基づいて図形を弁別できるようにしたい。また、物語仕立ての単元構成にしたり、操作活動や話し合いを取り入れた学習活動を行ったりすることで、意欲的に学習活動に取り組み、図形について実感を伴って理解できるようになってほしい。

### 3 具体的な手だて

#### (1) 物語仕立ての単元の構成

本単元では、「図形型のキャラクターが困っているから助けてあげよう」という課題をクリアしながら進めていく物語仕立てにする。そうすることで、児童は学習意欲や目的意識をもち、学習を進めていこう。まず、各時間の導入で、その時間での「キャラクターたちの困りごと・依頼」が分かる動画(40秒程度)を視聴し、それを解決することをめあてとする。終末では、困りごと・依頼を解決した子どもたちに向けてキャラクターたちが感謝する動画(20秒程度)を視聴することで、目標が達成できたという充足感をもてるようにする。

#### (2) 「なかま分け」による操作活動と話し合い

本単元では、三角形、四角形、長方形、正方形、直角三角形といった、直線図形の中でも基本的な図形について学習する。これらの図形について、感覚的・視覚的な判断ではなく、定義に基づいた判断で弁別できるようになるのが目標である。そのため、「仲間分け」という弁別作業を主な活動とする。その活動の際、「直線の数」「角の数」「直角があるかないか」などの構成要素に着目して弁別することで、三角形や四角形、長方形などの直角をもつ図形について、実感を伴って理解できるようにする。

#### (3) 学習したことを整理し、自分の知識とするためのふり返し

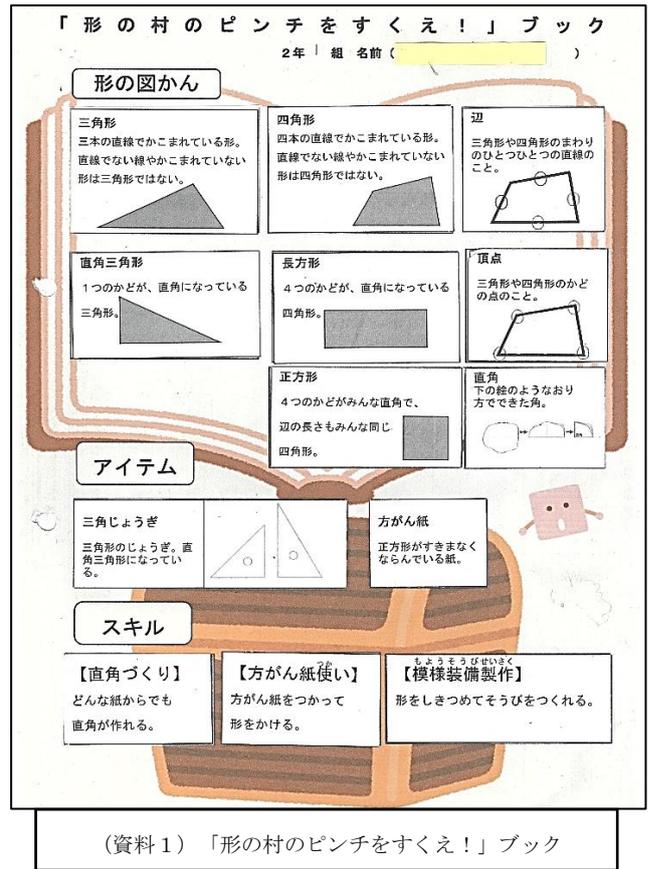
本単元では、「キャラクターたちの困りごとを解決する『こつ』をアドバイスしよう」という視点でふり返し(まなふり)を行う。そうすることで、さらに物語の中に入りつつ、自分が学習したことを整理できる。また、単元の間と最後にふり返りのふり返し(ふりふり、ひろふり)を設定することで、単元を通して分かったことを学級で共有し、整理する。そして、子ども一人一人の学習内容の定着を図る。

#### (4) 「形の村のピンチをすくえ！」ブックの活用

学習した用語などの定着・活用を支援するために、「形の村のピンチをすくえ！」ブックを作る(資料1)。一覧表にすることですぐに確認ができるようにし、授業で学ぶたびに、図鑑やアイテム、スキルとして学んだことを一つずつ張り付けて増やす。「形の村のピンチをすくえ！」ブックを活用することで、前時までの学習内容をふり返って本時に活用したり、知識の整理・定着を図ったりする。

#### 4 単元観

単元の始まりで、子どもたちは単元名を聞き、お話の世界に入って学習を進めていくことを知る。それにより、物語を自分たちで進めるというワクワク感をもって本単元に入っていきことができるだろう。本単元では、各時間を「第〇話」として、一つの物語として進めていく。各導入では、登場人物の図形のキャラクターたちが自分たちは仲間なのか違うのかが分からず困っていて、子どもたちに「仲間分けの方法を考えてほしい」と助けを求めて依頼をする。その依頼を解決することを毎時間のめあてとし、何に着目して仲間分けをするか、個人で考えたり、学級で話し合ったりしながら、解決方法を導き出す。そして、授業の終末では、「依頼を登場人物たちで解決するためのコツをアドバイスしよう」という視点でふり返り(まなふり)を書き、発表する。そうすることで、物語の世界観を保ちつつ、自分たちの学びを整理して学級全体にも共有できる。また、単元全体で一つの物語になるようにそれぞれの話に連続性をもたせ、前時までに学習したことを次時に生かせることに気付くように単元の流れを工夫する。さらに、ふり返りのふり返り(ふりふり)を設定し、それまでの学習内容を整理して学級全体で共有することで、学習内容の確実な定着を図りたい。また、単元の終末(ひろふり)では、図形を組み合わせると新たな形が出来上がることに気付いたり、得た知識を自分の生活に結び付けたり、「仲間分け」という弁別するよさを実感したりと、学びを広げるような視点で学習をふり返りたい。



時	学習内容と活動
1	こまっているいろいろな形をたすけよう (三角形や四角形の定義を知る)
2	三角形を正しく村にあんないしよう (三角形の構成要素を知る)
3	四角形を正しく村にあんないしよう (四角形の構成要素を知る) ○村に帰れなくて困っている図形や、入っていいか迷っている図形たちがいるので、仲間分けを行い、条件に合った図形のみが入ることができる三角村、四角村に案内する。

第2時導入の動画の一場面



→単元の前半で学んだ、三角形や四角形、直角などの定義を活用して、長方形、正方形、直角三角形を仲間分けするという新たな課題を解決するために、ふり返りのふり返りで学びの確認をする。

6

**ふりかえりをもとにしてぼうけんのきろくを書こう 【ふりふり】**

○ふり返りシートを活用し、これまでの学習で分かったことを話し合う。

「直線の数で三角形や四角形に仲間分けしたよ」  
 「三本の直線で囲まれた形が三角形というよ」  
 「四角形の頂点から頂点を結んだら、二つ三角形ができるよ」  
 「直角はノートや窓、箱にあったよ」  
 「三角定規は、直角が一つしかないんだ」

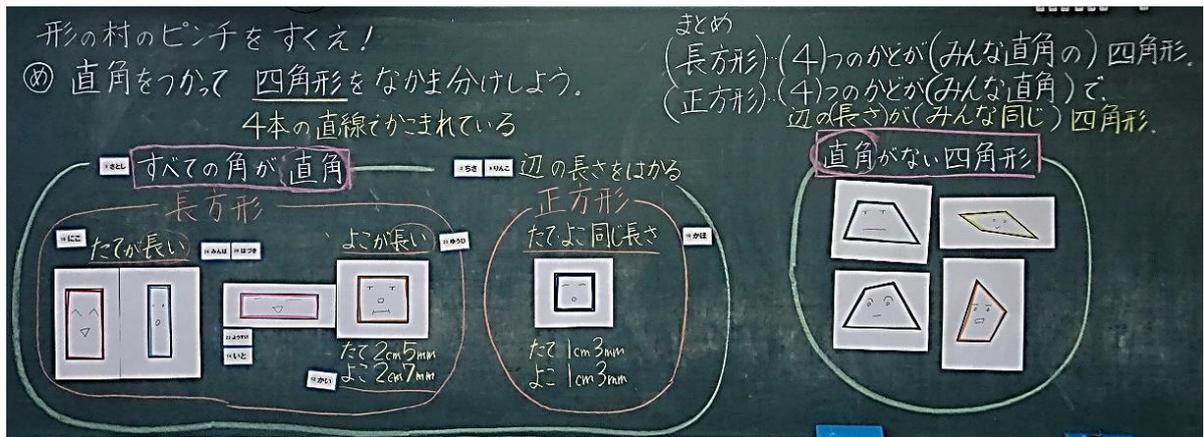
ふり返りシート (第1時～第6時)

第6時「ふりかえりをもとにしてぼうけんのきろくを書こう」の板書

**これまで学習で分かったことを書こう**

- ・直線で囲まれている形だけが三角形や四角形と言えることが分かった
- ・直線ではない線があったり、線が切れていて囲まれていなかったりする形は、三角形や四角形とは言えないことが分かった
- ・形の中には、直角という特別な角があるものがあると分かった

7 直角をつかって四角村の村人（四角形）をなかま分けしよう（長方形と正方形を知る）



第7時「直角をつかって四角形をなかま分けしよう」の板書

8 直角をつかって三角村の村人（三角形）をなかま分けしよう（直角三角形を知る）

○区画整理して住み分けをしたい三角形や四角形のために、仲間分けをする。

「形の村のピンチをすくえ！」ブックの中に仲間分けに使えるものはないかな

「直角のある四角形、ない四角形で分けられそうだよ」

「直角のある四角形の中に辺の長さがみんな同じ四角形があるよ」

「三角形も、直角があるものとないもので分けられそうだよ」



「形の村のピンチをすくえ！」ブックから仲間分けに使えるようなことを探す子どもの様子

- ⑧ 四角形や三角形の中で仲間分けするには、どこを見るといいかな
- ・ 四つのかどがみんな直角の長方形、辺の長さもみんな同じの正方形で、グループになって分けられるといいよ
  - ・ 一つのかどが直角の直角三角形のグループを作って分けられるといいよ

第5時  
と関連

9 村人を方眼紙にかいてふやそう（方眼紙を使った作図の仕方を知る）

○直角をもつ村人を増やしたいという村長の依頼を解決するために、方眼紙を使って長方形などの図形をかく。

「方眼紙のまずは、正方形だね」

- ⑨ 方眼紙を使うと四角形や三角形をかくときにどんなふうに便利かな
- ・ 方眼紙の正方形を使えば、直角のある形をかきやすいよ
  - ・ 方眼紙は辺の長さがみんな同じ正方形のますだから、かきたい辺の長さで簡単にかけるよ
  - ・ 方眼紙があれば、三角定規がなくても四角形や三角形がかけるよ

10 色紙をならべて、いろいろなもようのそうびを作ろう

(平面の広がりを知る)

○同じ形の色紙を並べて模様(剣と盾)を作る。

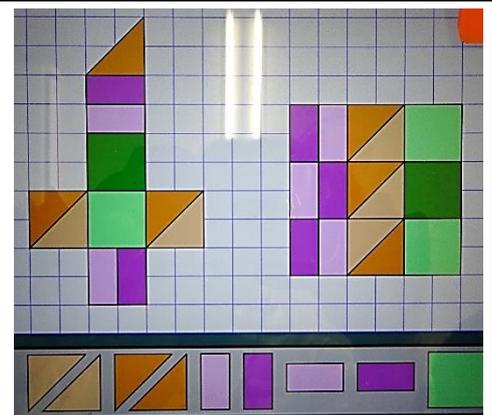
「直角三角形を並べたら、正方形が見えてきたよ」

「長方形を並べたら、正方形が見えてきたよ」

④きれいな模様にするにはどう並べればよいか

・直角三角形や長方形を並べると正方形が見えてきて教室の床みたいな模様になるよ

・直角三角形は二つで正方形になるから、三角村と四角村の両方の村長さんにおすすめできるよ



児童が作った模様(左は剣、右は盾)

11 ぼうけんをふりかえり、これからの生活に生かそう

【ひろふり】

振り返りシート (第7時~第11時)

○ふり返りシートを活用し、単元を通して分かったことを話し合う。

「三角形や四角形という言葉のほか、辺や頂点という言葉も知ったね」

「直角という特別な角と、それをもつ形のことも分かったよ」

○「形の村のピンチをすくえ!」ブックを完成させて、単元のまとめとする。

⑤単元を通して分かったことをまとめて、ブックを完成させよう

・四角形と三角形だけではなく、細かい仲間分けができるんだなと知りました

・角と直線で仲間分けするのもいいけれど、直角で考えるとまた新しい考え方がうかんでくると分かったよ

・直角であるかないかで分けられて、その直角も作れるようになったから、これからの生活で看板とか何かの形を正方形や長方形だと分かるようになりたいです

5 成果と課題

○物語仕立ての単元構成にすることで、子どもたちがワクワク感をもって意欲的に学習に取り組むことができ、話し合いも活発になった。

○三角定規の直角を図形に当てて仲間分けするなど、それまでの学習で得たものを使って課題に取り組んでいて、学びのつながりができていた。

●板書やプリントに書いたまとめの内容を写し、「～がわかった」と同じことを書くことはできたが、「アドバイスをしよう」という形式の振り返りは、物語の世界観を保つというよさがある反面、「説明をする」という要素があるため、低位の児童はどう書いてよいか分からなくて一文字も書けなかった。

# 第3学年 総合「自然災害に備え隊！ キラリンジャー参上！ ～必生！ オリジナル防災ガイドの巻～」

## 1 単元目標

- ・自然災害に対する正しい知識を深め、防災のために事前に必要な準備をすることができる。  
(知識及び技能)
- ・仲間とともに課題解決に取り組み、身を守るための行動を考え、まとめることができる。  
(思考力、判断力、表現力等)
- ・自然災害を自分事として捉え、課題を追究しようとするすることができる。  
(学びに向かう力、人間性等)

## 2 目指す子ども像

児童はこれまでの生活の中で、自然災害のことを漠然と知っている程度で、実際に身近に感じることは少ない。防災についてのアンケートを実施したところ、ほとんどの児童が防災という言葉を知っているが、家で事前に避難する準備をしていないことが分かった。また、2学期のはじめに学校で避難訓練を実施したときの様子を見ると、多くの児童は緊急放送が流れた瞬間に、素早く机の下に隠れて頭を守ったり、安全な場所で屈んだりして、自分の身を守る行動をとることができた。しかし、机の下に隠れたものの近くの児童と話したり、グラウンドに避難をしたときには関係ない話をしたりする児童の姿も見られた。このように児童が危機感をもって取り組めていない様子から、防災についての関心が低く、自然災害を他人事のように考えていると感じた。この地域を含む、広範囲に影響があるとされる南海トラフ地震はいつ起きてもおかしくない状況である。児童には地震について危機感を高めてほしいと考えた。本単元を通して、自然災害を自分事として捉え、仲間と課題解決に取り組み、身を守るための行動を考えるとともに、自然災害に対する正しい知識を深め、防災のために事前に必要な準備をすることができるようにしていきたい。

## 3 具体的な手だて

### (1) 自然災害を自分事として捉えるための導入の工夫

単元の導入で、自然災害をより身近に感じることができるようするために、過去の災害の映像を見たり、クロスロードゲームを行ったりする。また、ゲストティーチャーから実際の地震が起きたときの被害の大きさや防災の大切さについて話を聞いたり、自分たちの生活と関わりのある学校や家を調べたりすることで自然災害を自分事として捉え、防災についての関心を高めることができるようにする。

### (2) 課題解決のための話し合う場の設定

「命を守るために事前にどのような準備が必要か」という学習課題を追究するために、防災ガイドブックを作る。どのような内容が必要か、どのようなガイドブックを作ると防災に役立つのかを話し合う場を適宜設定することで、防災のために事前に必要なことを確認できるようにする。その際、座標軸を使って、それぞれの内容に対する児童の考えを視覚化して話し合う。そうすることで、互いの考えが一目で分かりやすくなり、自分の考えやその基となる根拠を明確にしたり、それぞれの内容の位置付けを明らかにしたりしながら防災ガイドブックに載せる内容を精選することができるようにする。また、防災ガイドブックの内容を吟味することで、自然災害に対する正しい知識を深めることができるようにする。

### (3) 学習内容を整理するためのふり返し

防災ガイドブックを作る前に、これまでの学習のふり返しを行う。そのふり返しを基にして、防災ガイドブックに必要な内容について考える。分かったことや疑問を整理・分析することで、自然災害が起こったときにどのような情報を事前に知りたいか児童が考えることができるようにする。また、毎時間ふり返しをすることで授業に連続性をもたせ、学びを深めることができるようにする。

## 4 単元観

導入で、児童が自然災害を自分事として捉えられるように、自然災害の映像を見たり、クロスロードゲームを行ったりする。第3時には、刈谷市危機管理課の方を講師として招き、南海トラフ地震で想定される刈谷市の被害について説明していただく。そして単元を貫く大きな学習課題「命を守るために事前にどのような準備が必要か」を設定する。その上で児童が身の周りの安全について考えていく。第4～8時には学校や家の中の危険なものや場所について調べ学習をする。この活動を通して、「自分の身の周りには危険なところがあり、事前に対策をしないといけない」「地震が起こったときはどのように行動したらよいのだろう」といった気付きや疑問が出てくるだろう。その気付きや疑問から、第9時ではオリジナル防災ガイドブックの内容について考える。これまでの学習を通して分かったことや疑問を整理・分析することで、自然災害が起こったときにどのような情報を知りたいか、防災ガイドにはどのような内容が載っているとよいかを座標軸を用いて話し合う（ふりふり）。そして、第11～18時は学級を6つのグループに分けて、防災ガイドの内容について課題の追究を行う。調査したことを発表する場を設定することで、学級で防災の知識を共有できるようにする。まとめとして、第19～22時でオリジナル防災ガイドを作り、第23時には第2時で行った「クロスロードゲーム」を再び行う。前回のクロスロードゲームよりも知識を得て、具体的な話し合いになることで、これまでの学習をふり返し、防災の知識が身に付いたことが実感できるようにし、各家庭で生かせるようにしたい（ひろふり）。

時	学習内容と活動
1	<p>自然災害について知ろう</p> <p>○自然災害に関するプレゼンテーションを見て、自然災害について興味・関心をもつ。</p> <p><b>④ 災害が来る前に自分たちにできること</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・避難訓練を真剣にやる</li><li>・いつ来ても逃げられるように避難場所を決める</li></ul>
2	<p>クロスロードゲームをしよう</p> <p>○クロスロードゲーム（資料1）を行い、災害の対応を考え、グループで交流する（資料2）。</p> <p><b>問題①</b> 授業中、地震が起こりました。机の下に隠れる？</p> <p><b>問題②</b> 地震が起こり、グラウンドに避難することになった。走って避難する。</p> <p><b>問題③</b> 朝、登校するときに地震が起きました。あなたはどうしますか。学校に急ぐ？</p> <p><b>問題④</b> 地震が起きて火災が発生した。どうする？</p> <p><b>問題⑤</b> 災害時に友だちがけがをしたら手当てをしてあげるべきか？</p> <p>資料1 クロスロードゲーム設問</p>



④ ゲームをやって困ったことや知りたかったこと  
 ・勉強しないと分からないことがたくさんあったからもっと勉強をしたい  
 ・災害のときにけがをした友達を助けるか、助けないか困った

第 23 時と  
 関連

資料 2 クロスロードゲームで話し合う児童

→単元の最後にもう一度同じ問題のクロスロードゲームを行い、学習を通して防災の知識が身に付いたことが実感できるようにする。

ゲストティーチャーの話を聞こう

- 3 ○刈谷市で地震が起こったときに、どのような被害が出るのか話を聞く（資料 3）。
- 単元を貫く大きな学習課題「命を守るために事前にどのような準備が必要か」をもつ。

④ 命を守るために必要なこと  
 ・避難場所を決めて、どこに避難するかということを決めておく  
 ・防災グッズは揃えているけれど、たくさんあって運びにくいので持てる重さにしたい



資料 3 刈谷市の地震被害について話すゲストティーチャー

→命を守るために必要なことをふり返ることで、事前の準備の必要性に気づき、単元を貫く大きな学習課題をもつ。

- 単元の最後にオリジナル防災ガイドを作ることを知る。

4 学校を調べよう

- 5 ○地震が起こったときに、学校の中で危険なものや場所を調べて、ワークシートにまとめる（資料 4）。

④ 学校を調べて分かったこと  
 ・学校の危険な所を知れたから地震などがあつたら、その危険な場所には近づかないで机の下に隠れた方がよいことが知れた。自然災害がいつ起こるか分からないから、危険な場所を知るの大切だと思った  
 ・学校には、危ない所がたくさんあると分かった。特に、掃除ロッカーや水槽、テレビ、扇風機が危なかった。先生に「教室の級訓の額縁が危ない」と言われ、「なるほど」と思った。他の学年に教えたい



資料 4 学校の危険箇所を調べる児童

6 ○防災備蓄倉庫の中を見学する（資料5）。

㊦ 防災備蓄倉庫を見学して分かったこと

- ・ 防災備蓄倉庫はお米とか水が少ないから自分の家から持ってこないといけないと思った
- ・ 備蓄倉庫の食料や飲み物が少ないから地震が起きる前に災害の準備が必要だと思った
- ・ 防災備蓄倉庫にたくさん物が入っていて、ぎゅうぎゅうだと思ったけれど少なかったの、家から自分の物は自分で持って行った方がよいと思った



資料5 防災備蓄倉庫を見学する児童

7 自分の中を調べよう

8 ○地震が起こったときに自分の家の中で危険な物や場所を調べて、ワークシートにまとめる。

㊦ 家の中を調べて分かったこと

- ・ 家の中には、危ない場所がたくさんあって危険だから、地震が来たときのために家族と話し合いをして、対策するとよいと思った
- ・ それぞれの家を調べた発表を聞いて、物が倒れたり、落ちてきたりすることが多いと思った。家族にも教えたい

→ふりふりで体験したことや調べて分かったことをふり返ることで、防災ガイドブックに必要な内容を精選するための根拠となるようにする。



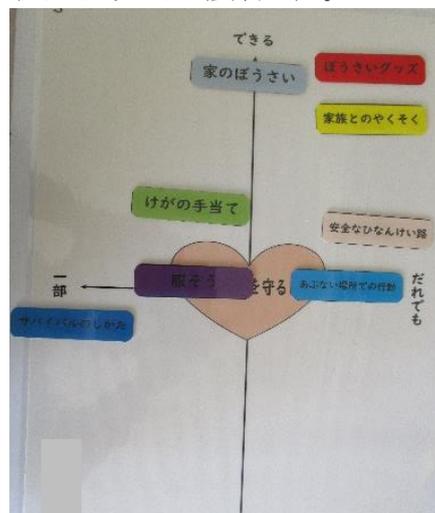
9 **オリジナル防災ガイドに必要な内容を考えよう【ふりふり】**

○これまでの学習を踏まえ、グループで防災ガイドに必要な内容を4つ考える。

○グループごとに防災ガイドに載せる内容と選んだ根拠を考える（資料6）。

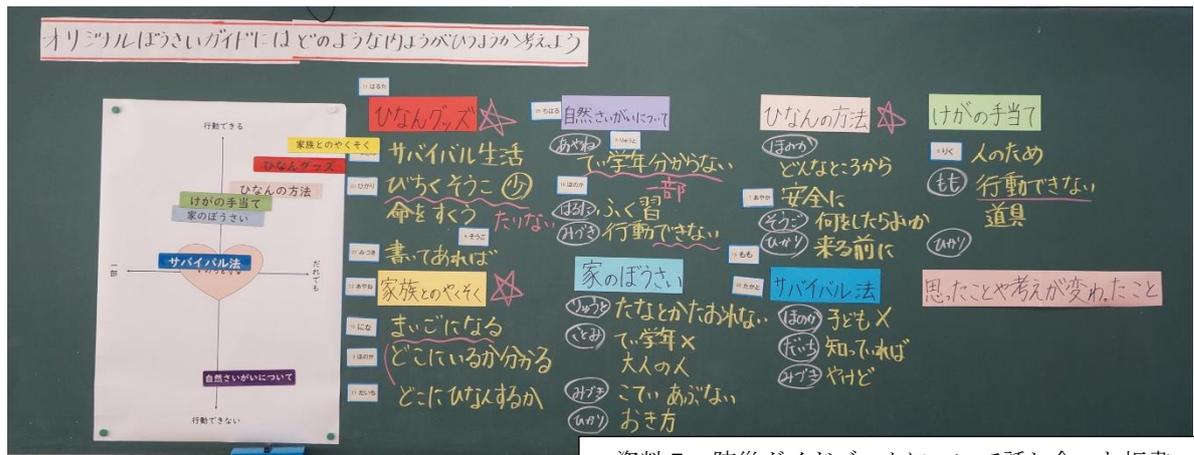
㊦ 防災ガイドの内容を4つに絞って思ったこと

- ・ どれも大切だけど、家の防災、家族との約束、避難の方法、避難グッズが特に大切だと思った。避難方法が分からないと命がなくなってしまう
- ・ 最初はサバイバルの方法は誰でもできると思ったが、話し合ってから火とか危ないと言っていたから誰でもできる訳ではないと分かった



資料6 考えを整理するために用いた座標軸

10 ○グループで考えた内容を学級で話し合い、防災ガイドの内容を学級で4つ考える（資料7）。



資料7 防災ガイドブックについて話し合った板書

④ 思ったことや考えが変わったこと

- ・家の防災が大切だと思う。危ないままだと命がなくなってしまうと悲しいし、「こうすればよかった。」と後でふり返ることになるから
- ・他の人の意見を聞いて、サバイバル法がよいと思っていたけれど、けがの手当てを載せた方がよいと思った
- ・けがの手当てがよいと思った。理由は、サバイバル法は火が危ないからできるのは一部だと思う。家の防災は重いものがあるから子どもは危ないから

11 オリジナル防災ガイドに必要なことを調査しよう

- 5 ○課題を追究する。
- 17 ○学級で決めた4つの内容のグループに分かれて、課題を追究することでグループ間で情報を共有できるようにする。

18 調査したことを発表しよう

- ポスターセッションで調査した内容ごとにブースを開き、他の調査をしていた人に発表することで情報を共有する（資料8）。

⑤ 調査内容を聞いて分かったこと

- ・家の防災で、ドアの前だけ固定すればよいと思っていたけれど、すべて固定した方がよいと分かった
- ・机や椅子に滑り止めをつけるだけでなく、もしものためにクッションや枕も必要だと分かりました。車にいるときに地震がきたら、ゆっくり左に停車することが分かりました



資料8 防災グッズについて発表を行う児童



## 第4学年 国語科「物語の魅力を伝えよう

### (ごんぎつね)(本をみんなにすすめよう)」

#### 1 単元目標

『ごんぎつね』読むこと

- ・新美南吉の生い立ちを交えたブックトークと教材『ごんぎつね』から、南吉と登場人物であるごんと兵十の共通点を見つけることができる。(知識及び技能)
- ・ごんと兵十の関係が読み取れる言葉を見つけて、人物の相手への気持ちを話し合い、物語の魅力に気付くことができる。(思考力、判断力、表現力)
- ・友達の発言をじっくり聞くことで読み方を獲得し、ふり返りに獲得した読み方を使って自分の考えを書くことができる。また、読み取りの授業を通して、自分の成長に気付いたり、物語の魅力を想像したりすることができる。(学びに向かう力、人間性等)

『本をみんなにすすめよう』話すこと・聞くこと

- ・読んだ本から、心に響いた一冊の魅力を伝えるプレゼンテーションを組み立てることができる。(知識及び技能)
- ・友達のプレゼンテーションを聞いて、南吉の世界を広げて、南吉が伝えなかったことを想像することができる。(思考力、判断力、表現力)

#### 2 目指す子ども像

9月、物語『一つの花』の「父母のゆみ子への思いを読み取ろう」の授業において、子どもたちは「一つだけちょうだいと言え、何でももらえと思っているのね」の母の言葉から「ゆみ子は欲張りだと思っている」「大人になって悪い子にならないか心配している」と、全員が母の気持ちを読み間違えていた。子どもたちはせりふだけで人物の気持ちを読み取ろうとし、作者が選んだその周りに散らばってる言葉から、人物の気持ちを想像することがなかった。そこで、「繰り返し出てくる言葉」や「言い換えた言葉」、「対比となる言葉」には登場人物の気持ちが隠れていることを伝え、読みの視点として、キーワードを示し、それを毎時間掲示して授業を行うことにしたところ、「プラットホームのはしっぽのごみすて場のようなところにわすれられたように」から、父のゆみ子への思いを深めていくことができた。

本教材『ごんぎつね』においても、読みの視点となる言葉を見つけて話し合えば、子どもたちは登場人物の気持ちにぐっと迫れるのではないかと考える。そこで、言葉から登場人物の思いと物語の魅力を読み取ってほしいと願い、読みの視点となるキーワードを見つけて読むことのおもしろさを子どもたちが味わえるような単元を仕組むことにした。

#### 3 具体的な手だて

##### (1) 子どもたちが考える読みの視点

『ごんぎつね』の一読後に、読みの視点を話し合う場を設け、子どもが見つけた読みの視点とキーワードの例を黒板に貼って、常に読みの視点を意識できるようにする。

##### (2) 『ごんぎつね』の読み取りの支援となるブックトーク

ブックトーク「南吉ワールドへようこそ」において、「情景描写」や「色」が人物の気持ちを表している物語、「悲しみ」を強調している物語、悪いことをしていた人物がよい心になる物語を紹介して、『ごんぎつね』の読み取りの支援とする。

### (3) 登場人物の人物像と二人の人物の関係をさぐる課題

場面ごとの読み取りの前に、ごんと兵十の人物像を話し合い、人物の大まかな特徴を捉えたり、作者である南吉とごん、兵十を比べる場を設けたりする。

また、場面ごとの読み取りの課題を「ごんと兵十の関係をさぐろう」として、ごんの目線になって読んだり、書かれていない場面においても兵十の気持ちを読んだりする。その際、読みの視点となるキーワードから想像をふくらませることができるようにする。

### (4) 読み取れなかった内容を考えるふり返りと、自分の成長や作品の魅力を見つめるふり返り

読み取りの授業で、毎時間、話し合い後のふり返りに、その授業でもう少し読み取ってほしいことをノートに書く時間を設け、国語通信で紹介したり、次時の始めに発言する時間を設けたりして、全体に広げる。

また『ごんぎつね』の読み取りを終えた後に学びのよさを見つめる時間を設ける。ワークシートには、友達から学んだこと、自分ができるようになったこと、『ごんぎつね』の魅力を書くようにする。

### (5) 物語の魅力を伝えるプレゼンテーション

朝の読書タイムに南吉作品を読むようにし、1か月間読んで、一番心に響いた物語の魅力をプレゼンテーションソフトを使って紹介することにする。プレゼンテーションソフトを使うと、本を持たなくても、本の表紙や本文、登場人物を写真で紹介できるよさがある。

## 4 単元観

本単元は『ごんぎつね』の読み取りで獲得した言葉に着目する読み方を、別の南吉作品においても活用し、物語の魅力を見つけて発信することができるようになることをねらう。

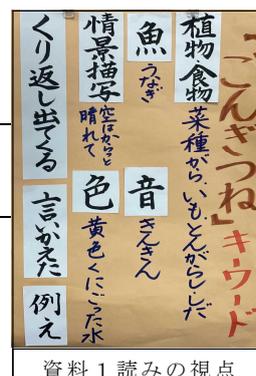
『ごんぎつね』一読後に、読みの視点について子どもたちが考え、さらに、教師によるブックトークにより、南吉の書き方の特徴である「情景描写」と「色」を視点にして読むと、登場人物の心情が読めることを伝える。

教材の読み取りでは、毎時間のふり返りに、もう少し読み取ってほしい課題を与えて、ノートに書く時間を設ける（まなふり）。子どもたちが書いたふり返りを国語通信に載せて、次時の始めに発言の場を設ける。それにより、読みの視点となるキーワードに着目すると、人物の心情が分かることを全員に知らせる。

教材を読み取った後に、友達から学んだこと・自分ができるようになったこと、『ごんぎつね』の魅力を書く時間を設け、学びのよさを実感できるようにする（ふりふり）。

1か月の間、朝の読書タイムで南吉作品を読み、読んだ物語の中から一番心に響いた物語を選び、プレゼンテーションソフトを使って、物語の魅力を発信する。ここでは、ブックトークで得た知識や『ごんぎつね』の読み方を使って物語を読み、着目した言葉を提示しながら、その物語の魅力を伝えられるようにしたい。友達の発表を視聴し、さらに読みたくなった物語を読んだ後で、作者である新美南吉に手紙を書き、南吉の魅力と自分の生き方や考え方を見つめられるようにしたい（ひろふり）。

時	学習内容と活動
1	『ごんぎつね』を読んで読みの視点を考えよう ○一読後、読みの視点を話し合う（資料1）。



資料1 読みの視点

『植物・食料』キーワードは、菜種がらやとんがらし、くりや松たけも

『魚』うなぎはキーワード

2 新美南吉ブックトークを聞こう

○読みの視点を新たに見つける。

『情景描写』南吉さんは、若いのに子ぎつねの  
楽しい気持ちを情景描写で表している」

『コバルト色』はお母さんぎつねの気持ちを表  
しているのかも」



資料2 「ブックトーク」

→南吉の生い立ちや、当時の情勢、ごんぎつねの舞台となる半田の風景について、年表と写真を見せながら本を紹介する。『ごんぎつね』や南吉作品を読む支援とする。

(資料2)

登場人物について読み取ろう

3 ○ごんはどんなきつねかを話し合う。

㊦ 村の人たちはごんのことをどう思っていたのだろう

- ・「菜種がら」「とんがらし」は当時の人たちにとって貴重なものだから、生活をくるわせるレベルのいたずら
- ・そうとう困っているし怒っている



第10時との関連

4 ○兵十はどんな人物かを話し合う。

㊦ ごんは、兵十をどのように思っていたのだろう

- ・文中に書かれてある兵十は、ほとんどごんが見た兵十が書かれている
- ・兵十の表情や生活ぶりをよく知っていて、ちょっと馬鹿にしている



第6時との関連

5 ○南吉はどんな人かについて話し合う。

㊦ ごんと南吉は似ているのだろうか

- ・ごんは、暗くてじめじめした誰も来そうにない「しだのいっぱいしげった森の中」にすんでいたけど、南吉も友達がいないう里離れた竹が生い茂った養家に預けられた
- ・どちらもさびしがりや。南吉さんはお母さんがいなくてさびしいし、ごんもひとりで穴の中にうずくまっていた。さびしいから、村に出ていたずらをしている



第2時からの関連

ごんと兵十の関係を探ろう

第6時からの『ごんぎつね』の場面ごとの読み取りでは、最後の一文「青いけむりが、まだ、つつ口から細く出ていました」を読み取るために、毎時間、話し合いで読み取れないごんと兵十の相手への思いをふり返りに書く。それらを国語通信に載せて、次時の始めに全体に広げる。

6 ○一場面のごんと兵十の関係について話し合う。

「『はぎのかぶが黄色くにごった水に横だおしになっています』『兵十の顔の横っちょうに円いはぎの葉が一まいへばりついてます』の『はぎ』に着目すると、この後、兵十に何か悪いことが起きることを予兆している」

㊦ ごんのいたづらについて読み取ろう

- ・「ぼんぼん投げこみ」からごんが軽い気持ちでやっていることが分かる
- ・「トボン」から大きい魚だと分かる
- ・「もぐりこみ」から魚は生きている。魚は5匹以上。兵十にとって大きな痛手となった

第8時との関連

第10時との関連

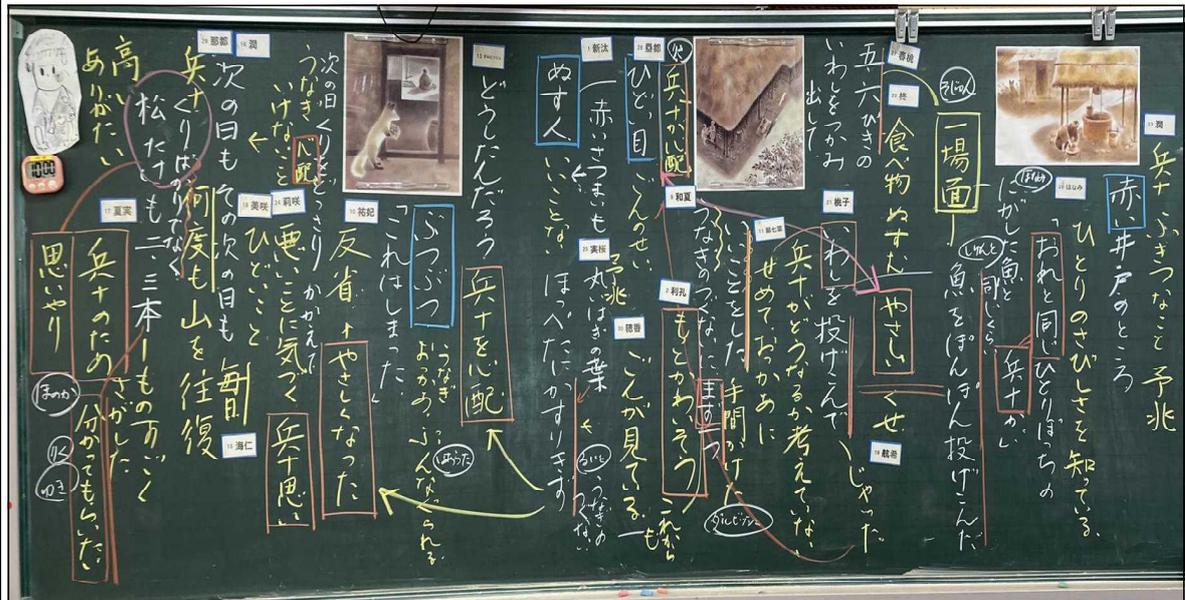
7 ○二場面のごんと兵十の関係について話し合う。

「『ひがん花がふみ折られて』と『赤い井戸』から、貧しい中でもお母さんと二人の幸せをごんがうばったことを表している」

「ごんがひがん花の中にいるから、ごんに悲しい出来事が起きることを予兆している」

「『赤いさつまいもみみたいな元気の良い顔が、今日はなんだかしおれて』の『しおれて』は、花に使う言葉。ごんに兵十の悲しみが伝わった」

8 ○三場面のごんと兵十の関係について話し合う（資料3）。



資料3 読みの視点に着目してごんの変容に気付く

「いわしを投げこんだときは、川で魚をぼんぼん投げ込んだときと同じ」

「魚だけど、いわしは食料。盗んでいるからごんは変わっていない」

「ごんは、山と兵十の家を何度も往復している。探すのが難しい松たけも二、三本持ってくるから、兵十のために必死にがんばっている」

「ごんは、盗むのをやめて、兵十のために自分で努力している。ごんが変わった」

㊦ 兵十は、毎日どんな気持ちだったのだろう

- ・毎日毎日、置いてくれている誰かに感謝している。おっかあがいなくなってこの先どうすればいいかと思っていた矢先に、うれしい贈り物があって、ありがたいと思っている

第9時との関連

第10時との関連

9 ○四・五場面のごんと兵十の関係を読み取る。

「ごんは兵十のことがすごく気に入っている」

「兵十は、加助に『毎日毎日くれるんだ』と言うぐらいだから、すごくうれしい気持ちでいる」

「ごんが兵十をなめているときは『ははん』とか言っていたけれど、穴の中で考えた後からは『お念仏があるんだな』と言葉がていねいになっている。ごんが変わった」

「ごんは、兵十が好きになっている。かげぼうしをふみふみ。好きでないとそうしない」

㊦ ごんは、兵十のことが好きなのだろうか

- ・ごんは、何回も何回もくりをあげていたら、兵十と一緒にいたくなって、兵十のかげぼうしをふみふみしたり、井戸のそばにしゃがんで長いお念仏の間、待っていた
- ・ごんは、くりを届ける度にひとりぼっちじゃないと思った

第10時との関連

10 ○前時のふり返りを発表する。

「ごんは、ひとりぼっちではなくなった」

「兵十も気分的にひとりぼっちでなくなった」

○六場面のごんと兵十の関係を読み取る。

「兵十は『こないだ』と言っていて、つい最近のことのように思っているけれど、ごんにとっては、1か月ぐらいの兵十との物語がある」

「『ドン』に着目して、一発でしとめたかった。兵十だけでなく、村人たちにとっても嫌なきつねだった」

「ごんが倒れた『ばたり』はごんの悲しみで、兵十が銃を取り落とした『ばたり』は、兵十の悲しみ」

「『青いけむり』は、ごんの魂。兵十に気付いてもらえたけど、願いは叶わなかった」

「『青いけむり』は、兵十の後悔。自分に幸せをくれたごんを殺してしまった」

㊦ 最後の一文からごんと兵十の関係は読み取れるか

- ・細いけむりのような関係。細いけむりのように今にも消えそう
- ・ごんの兵十へのいたずらから始まった二人の関係が悲しみに包まれて終わったということを表している

→第10時までの読みの視点に着目してキーワードを見つけて読むと、物語の魅力が分かることを使って、他の南吉作品の魅力をパワーポイントを使って伝える。そのために、自分の成長と『ごんぎつね』の魅力を見つめ直す。

11 友達から学んだこと・自分の成長・『ごんぎつね』の魅力を書こう 【ふりふり】

👤 友達からの学び・自分の成長・作品の魅力

- ・情景描写や色、音、植物、食物など、ざっと読んだだけでは、見逃してしまう言葉を注意して読むことで新たな発見ができることを知った
- ・「くりや松たけ」に着目すると、何度も何度も兵十のために往復していることが分かった。キーワードを見つけると、そこからいろんなことが浮かぶことがおもしろかった。南吉さんが「自分と同じひとりぼっちの兵十の気持ちを考えるごんがだんだん変わっていく」というストーリーにしたのがすごいと思って感動した

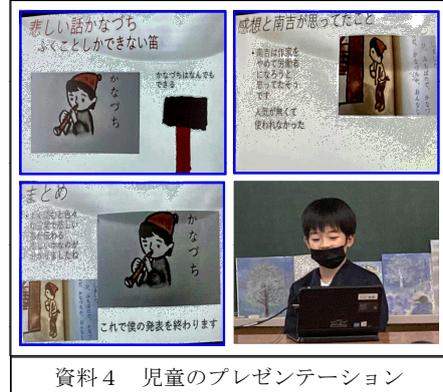
→朝の読書タイムで読んだ南吉の物語の中から一番心に響いた物語の「あらすじ」「登場人物」「作品の魅力」「『ごんぎつね』との共通点」「南吉が言いたかったこと」などを紹介する。『ごんぎつね』の読み方ができているかを確認する。

プレゼンテーションで物語の魅力伝えよう

- プレゼンテーション資料を作る。(12時～15時)
- 16 ○お気に入りの南吉の物語をプレゼンテーションソフト
- 17 トを使って紹介する。

『かなづち』を選んだ児童の姿(資料4)

「かなづちは何でもできる」「笛は役に立たない」の二文を映し「言葉でいろいろ考えられるのがよい」と述べた。そして、登場人物の笛吹きと鍛冶屋と靴屋を紹介して、笛吹きは、鍛冶屋と靴屋の話聞いて笛に生産能力がないことを知り、自分の笛を拾ったかなづちで砕き、工場ばかりのまちへ入っていくことを話した。最後の一文「工場ばかりのまちへまっすぐ歩いて行きました」を何度も読んで悲しくなったことや、『かなづち』を書いたころは、南吉も物語を書いてもお金にならないから労働者になろうかと考えていたことを語った。最後に「よく読むといろいろな言葉で悲しいことが伝わる」と締めくくった。いろいろな言葉について聞くと、「笛の音は『ヒロ ヒロ ヒーロ』だけれど、かなづちの音は『テンカン テンカン』と強く響いている。その対比が悲しい」と答えた。



- 18 南吉さんに手紙を書こう【ひろふり】

👤 これまでの学びを振り返って、南吉さんに手紙を書こう

- ・キーワードを見つけて読むと、そこに、登場人物の気持ちが隠れていたり、登場人物の関係が変わっていったりした。兵十に殺されるのを知らないで健気にくりを持っていくごんの姿を想像すると、胸が痛い。そんなごんの姿を描いたり、短い物語の中にも人物の思いを情景描写で表したりする南吉さんの学習が楽しくできたことに感謝する

## 5 成果と課題

- 読みの視点を子どもたちが考えて、そこからキーワードを見つけて人物の気持ちを読み取ったことで、さまざまな言葉から、人物の気持ちを読み取った。また登場人物の関係を探る課題で話し合い、読みが足りない内容をふり返りで考えたことで、二人の人物の思いを読み深めることができた。
- プレゼンテーションが本の紹介に有効であるかを具体的に分析すると、物語の特性が明確になる。



# 第5学年 国語科「紹介ポップを作って、宮沢賢治作品のおもしろさを伝えよう（注文の多い料理店）」

## 1 単元目標

- ・ 物語を読み、二つの意味をもつ言葉、様子や音を表す言葉、同じ言葉の繰り返しなどの表現の工夫に気付くことができる。 (知識及び技能)
- ・ 登場人物の相互関係や、心情、場面についての描写を捉え、自分の考えを伝えることができる。 (思考力、判断力、表現力等)
- ・ 宮沢賢治作品の紹介ポップを書くことに意欲をもち、作品同士のつながりを意識して読もうとすることができる。 (学びに向かう力、人間性等)

## 2 目指す子ども像

子どもたちはこれまでの学習で、登場人物の気持ちを文章から読み取ったり、物語の構成について考えたりする話し合いをしてきた。しかし、作品の中の表現の工夫やおもしろさに目を向け、自分の考えをもったり、相手に伝えたりすることができる子は少なかった。そこで、『注文の多い料理店』の学習を通して、心情の変化や、表現の工夫について考えることで、互いの考えを出し合い、認め合いながら読み深めていくことや、提示された読みの視点を使って、さまざまな読み方を模索していくことのおもしろさを実感することができるようにしたい。また、単元の終末に宮沢賢治作品の紹介ポップを作ることで、『注文の多い料理店』の学びから、表現の工夫を見つけたり、作品同士のつながりに気付いたりして、その作品のおもしろさを伝えたいという意欲を高め、相手に伝わるように表現する姿を引き出したい。

## 3 具体的な手だて

### (1) 単元の導入で行うブックトーク

単元の導入で、宮沢賢治作品のポップを作ることを伝え、ブックトークを行うことで、宮沢賢治の生き方や考え方について触れ、『注文の多い料理店』を読み深める目的を意識させるとともに、思考を助けるヒントにしたり、作品同士のつながりに気付くきっかけにしたりする。

### (2) 読みの視点の提示

表現の工夫に気付くために、二つの意味をもつ言葉、様子や音を表す言葉、同じ言葉の繰り返しなどの視点から書かれたふり返りを取り上げ、一人読み（一人で教材を読み、課題に対する気付きをノートにメモをする時間）をする際に読みの視点を提示することで、表現の工夫に着目しながら心情の変化を読み取れるようにする。

### (3) 読み方を学び、自分の変化に気付くふり返り

単元を通して、紳士の人物像や心情の変化についての学びをふり返り、1冊のふり返りブックに毎時のふり返りを貼って蓄積したり、自分のふり返りを読み返したりすることで、さまざまな読みの視点を使った読み方ができるようになってきたという自分の成長に気付くことができるようにする。また、ふり返りをまとめて掲示したり配付したりして、友達の考えを知ったり、これまでの自分や友達の学びの成果をひと目で分かるようにしたりすることで、読み取る際の視野を広げる。

#### 4 単元観

単元の始まりに、宮沢賢治作品の紹介ポップを作って掲示することを伝え、そのために『注文の多い料理店』の表現の工夫を学ぶことを知らせる。それにより、子どもたちは物語を読み深めていきたいと意欲を高めることができるだろう。『注文の多い料理店』の読み取りの授業で、「しんしはどんな人たちだと思ったか」という問いを中心に、気付いたことや分かったこと、考えたことについてふり返りに書き、前時の復習と次時の導入に活用する。単元を貫いて紳士についてのふり返りを書くことで、難解な紳士の人物像を読み取る手助けになると考えられる。また、物語を読む際に、表現の工夫に着目したり、作品同士をつながり意識しながら読み進めたりするおもしろさを感じることができるように単元を構成する。ふり返りのふり返り（ふりふり）で、宮沢賢治の表現の工夫をまとめてふり返ることで、表現の工夫が物語をおもしろくさせている要因の一つになっていることに気付かせたい。単元の終末には、『注文の多い料理店』と他の宮沢賢治作品をつながり意識して読むことで、学んできた表現の工夫が他の作品にも使われていることや、宮沢賢治の生き方、考え方が色濃く現れている描写があることに気づき、作品のさまざまなおもしろさを伝えるための作品紹介ポップ作りにつなげていきたい。

時	学習内容と活動
1	<p data-bbox="247 913 646 952">物語を読み、感想を伝え合おう</p> <p data-bbox="247 963 646 1041">○初読の感想を書き、気になる ところや疑問点を見つける。</p> <p data-bbox="247 1052 726 1142">「なんでしんしは、もっと早く気が付 かなかったのかな」</p> <p data-bbox="247 1153 710 1243">○紳士の性格についてノートに書き、 次時のブックトークにつなげる。</p> <div data-bbox="263 1299 718 1556" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p data-bbox="271 1310 702 1355">③しんしはどんな人だと思ったか</p> <ul data-bbox="279 1366 702 1545" style="list-style-type: none"> <li>・ しんしは簡単にだまされて頭が悪い人</li> <li>・ しんしは自分のことしか考えていない</li> </ul> </div> <div data-bbox="247 1579 718 1792" style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p data-bbox="263 1601 702 1780">→読みの視点を活用して読み深めていく中で、自分の考えの変化が分かるように、初めの段階で考えを書いておく。</p> </div> <div data-bbox="758 996 1452 1747" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div> <p data-bbox="885 1758 1284 1803" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">紳士の性格について考えたふり返り</p> <p data-bbox="247 1870 1077 1915">○単元の終末に宮沢賢治作品の紹介ポップ作りをすることを知らせる。</p>

2 ブックトークで宮沢賢治の世界に入りこもう

○宮沢賢治が生きた時代の背景や理想・作品への  
思いについて知る。

「こうなりたいという理想が作品に表れている」

○宮沢賢治の他の作品を知る。

「同じ音や同じセリフを使って他の作品も書いて  
いる」



ブックトークの様子

④ブックトークを通して、気付いたこと・考えたこと

- ・こんな世界がよいという理想を本に書いてすごい
- ・ブックトークで少しファンになった。宮沢さんの気持ちも考えて  
読みたい

第3～8時  
第10時と関連

3  
4  
5  
6  
7  
8

読みの視点に注目して、  
「注文の多い料理店」を  
読み深めよう

言葉の意味を調べよう

道に迷うしんしについて考えよう

店のおくに進んでいくしんしについて考えよう

おかしさに気付くしんしについて考えよう

声もなく泣いたしんしについて考えよう

顔が元のとおりになおらなかったしんしについて考えよう

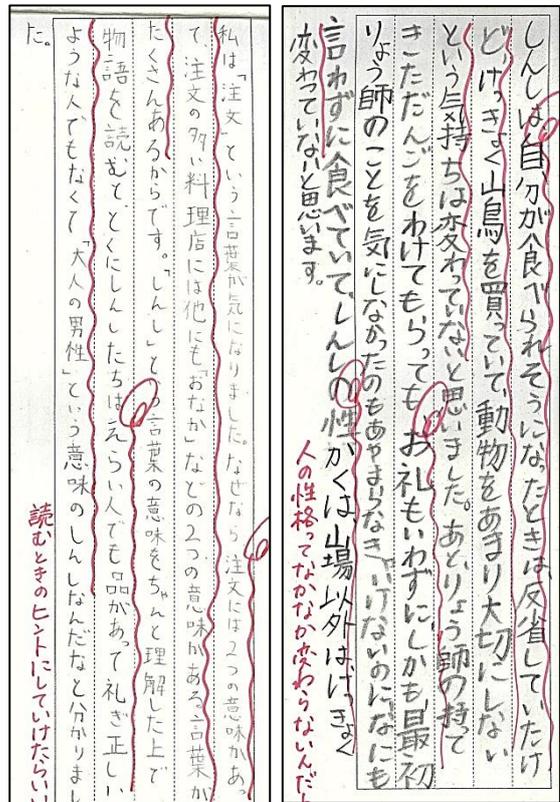
⑤今日の学習で、しんしについて分かったこと・一番注目したい表現

色の表現

- ・金文字：文字の色が金なのは高級感がある感じがする

二つの意味をもつ言葉

- ・食べられます：「食べることができる」と「食べられてしまう」わざとこの書き方にして、しんしをだまそうと思っている
- ・おなか：言葉の二つの意味から、実は戸の文字には自分たちを調理するために必要な準備の命令が書いてあったと気付いた



二つの意味をもつ言葉に  
注目したふり返り

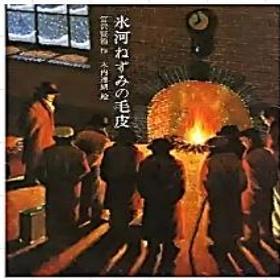
紳士に注目したふり返り





## これまでの学びを振り返ろう【ひろふり】

## 「氷河ねずみの毛皮」



12月26日夜8時ベアリング行の列車に乗ってイーハトーヴを発つ人たちはどんな眼に！？

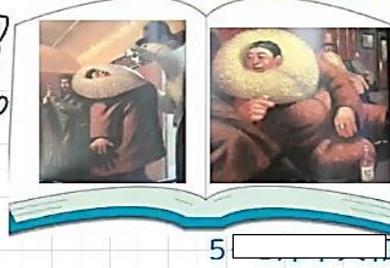
紳士達はどんな共通点がある？

そして紳士達は！？



## オススメポイント！

注文の多い料理店と同じ「紳士、高級品を身につけてお金持ちアピール、そしてビビり（泣く）なども同じで、しかも太っている、ピカピカの鉄砲も外とも出ていて、注文の多い料理店と同じ、似ているところがたくさんあるのでお勧めです。イーハトーヴを舞台にした面白いお話です。ぜひ読んでみてください。



### 銀河鉄道の夜

ケンタウル祭の夜、貧乏で親切な少年・ジョバンニが天気輪の丘でいつの間にか親友・カムパネルラと銀河鉄道に乗っていて……。

ジョバンニ

実は、賢治さんの好きだった植物や玉石も出てくるよ!!

**POINT**  
おすすめ

この物語と、「注文の多い料理店」との関係の一つは一等星アンタレスを持つサツリとしんしの性格が似ているところです。サツリもしんしと同じようなめに逢っています。あと、この物語にも宮沢賢治さんなりの様子や例えた表現が出てきます。この鉄道旅の結末は……。是非ともこの物語を読んで確かめてみてください。

完成したポップ

オツベルと象の関係が分かるように書いたこととオツベルとしんし（注文の多い料理店）の性格のことを意識して書きました。オツベルとしんしは動物に対してやさしく接する事をしないので、びくりにして暗くして引いている感じを表しました。海さんのオススメポイントの所いページの0行目の「こがいてみてみんなが読んでみようかな」と思った時に読みやすいから、良いなと思いました。

ポップ作りを終えての振り返り

## ① 単元を通して学んだことをふり返って、これから物語を読む際に生かしていけること

- ・ 友達のポップを見て、自分が気付いたこと以外にも、宮沢賢治作品はつながりがある作品が多いことが分かったので、まだ読んでいない作品も読んでみたい
- ・ 物語にはいろいろな表現の工夫があることが分かった
- ・ 物語には作者のメッセージがこめられている。読むときには作者のことを知ってから読んでみたい

## 5 成果と課題

- ポップを作るという目的意識をもって学習を進めたことで、ポップ作りに生かそうと意欲を高め、積極的に表現の工夫を見つけたり、表現の工夫に注目して考え、読みを深めたりすることができた。
- ポップ作りに取りかかる前に、これまで学習してきた表現の工夫を振り返ることで、学習してきた内容を意識しながら他の作品を読み、宮沢賢治作品の表現の巧みさに気付くことができた。
- 紳士の心情をテーマにした振り返りを行ったが、見つけた表現の工夫についてポップ作りにつなげやすい形で書くことが難しく、振り返りブックを見返したときにひと目で分かりにくかった。

# 第6学年 理科「水よう液のナゾを解いて宇宙兄弟に伝えよう

## (水よう液の性質)」

### 1 単元目標

- ・ 水溶液には、酸性、アルカリ性及び中性のものがあること、気体が溶けているものがあること、金属を変化させるものがあることについて理解することができる。 (知識及び技能)
- ・ 水を見つけ出したり、塩酸のナゾを解いたりするために、どのような実験をするとよいか多面的に考えたり、根拠をもって水溶液を判別したりすることができる。(思考力、判断力、表現力等)
- ・ 宇宙兄弟の依頼を解決することに興味をもち、水溶液の性質について、主体的に問題解決しようとしている。(学びに向かう力、人間性等)

### 2 目指す子ども像

子どもたちは理科が好きで、身の回りのものごとについて興味・関心をもち、意欲的に調べて生活に生かそうとすることができる。5年生で学習した「もののとけ方」では、水溶液が水に溶ける量には限度があること、温度によって溶ける量が変わること、溶質の質量は保存されることなどを学んだ。ふり返りには、「ものが溶ける量には限りがあるので、これから紅茶を飲むときは砂糖を入れすぎないようにしたい」と生活経験に基づいて考える様子が見られた。しかし、どのように実験すると課題を解決できるかを問うと、言葉に詰まり、条件に合ったよい方法を見つけ出すことができない子どもが多かった。そこで、「水よう液の性質」の学習を通して、宇宙兄弟からの依頼に対し、さまざまな実験を行って解決していくという単元構成にすることで、どのような実験方法で課題を解決することができるのかを多面的に考えることができるようにしていきたい。また、単元の終末に、宇宙兄弟に、課題解決をして分かったことやアドバイスを報告する活動を位置付け、宇宙兄弟を助けるために実験を行いたいという意欲を高め、自ら進んで課題解決に向けて取り組めるようになってほしい。そして、宇宙兄弟を助けるという学習活動を通して水溶液の性質に対する理解を深められたという達成感をもたせたい。

### 3 具体的な手だて

#### (1) 学習意欲が持続する単元構成

宇宙兄弟から「水溶液に関する困りごとを解決してほしい」という依頼が届いたことを伝え、「水よう液のナゾを解いて宇宙兄弟に伝えよう」という単元を貫いた課題を設定する。課題を解決するために実験を行い、解決したことをその都度宇宙兄弟に報告することで児童が興味・関心をもって取り組み、単元の終末まで学習意欲を持続できるようにする。

#### (2) 既習の内容を実験に活用

課題の解決に向けて、子どもが何度も実験方法を考えたり、どのような実験が効果的かを判断したりする必要がある。そこで、既に学習している「もののとけ方」「ものの燃え方」で行った実験を活用し、既習した内容から条件に合った実験方法を見つけ出すことができるようにする。

#### (3) 自分の思考の変化やつながりを視覚化したふり返り

毎時のふり返りで分かったこと、分からないこと、試したい実験の3つの項目でふり返り、その後の授業で分からないことや試したい実験が解決したときに矢印でつなぐことで、単元を通してどのように自分の思考が変化したりつながっていったりしたかを実感できるようにする。

#### 4 単元観

本単元では、目指す子ども像に迫るため、水溶液の性質を追究する学習活動を行う。単元の導入で、水溶液を身近に感じ、問題解決に向けての学習意欲を高めるために、「5つの水溶液と水との区別がつかなくなって困っているから水を見つけ出してほしい」という宇宙兄弟からのメッセージが届いたことを伝える。A～Fの水溶液を既習の内容から判別する実験を考え、その中から効果的な実験を試していくことを知らせ、第1時でどんな実験をするとよいか考える。第2時からは、考えた実験方法の中からの実験をしていくかを決めて行い、①実験をして宇宙兄弟に伝えられるようになったこと②まだ分からず伝えられないこと③これから試してみたい実験の3つの視点でふり返り（まなふり）を書くことで、課題解決に向けての現在の学習状況を整理し、次の実験に向けて見通しをもつ。第5時のふり返りのふり返り（ふりふり）では、これまでの実験から判別できた水溶液と、まだ判別できていない水溶液を整理し、これからの実験方法を考えていく中で、既習の内容では判別できず、新たな実験器具であるリトマス紙が必要であることに気付かせたい。単元の終末には、これまでの実験を通して解決したことや、水溶液の使い方に関するアドバイスなどを宇宙兄弟に伝える文章を書く（ひろふり）ことで、自分の力で課題を解決することができたことや、学習を通して水溶液の性質の知識が身に付いたことを実感できるようにしたい。

時	学習内容と活動
1	<p>○宇宙兄弟からの依頼文を読み、学習の見通しを立てる。</p> <div data-bbox="236 1032 1431 1417" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈依頼文〉朝日小のみんな、こんにちは！ぼくたちは宇宙兄弟！宇宙飛行士をしているよ。 ぼくたちは今日、数十年に一度しか咲かないという植物「リュウゼツラン」の花を国際宇宙ステーションにいる仲間に見せるため、地球から飛び立ったんだ。リュウゼツランがかれないように、水も忘れずに持ってきたよ！ しかし！！飛び立った直後に大きなゆれにおそわれたんだ！水の他に、食塩水・炭酸水・アンモニア水・塩酸・石灰水の5種類の水よう液を持ってきていて、近くに置いて保管していたんだけど、ゆれの影響ですべてのラベルがはがれてぐちゃぐちゃに…。どれがどれだか分からなくなってしまったんだ…。でも、水をあげないとリュウゼツランはかれてしまい、国際宇宙ステーションの仲間に数十年に一度の花を見せることができない！朝日小のみんな、ぼくたちに力を貸してくれないか？どうか、ぼくたちのために、水がどれなのかを見分け、教えてほしい！ぼくたちも、何か分かったら知らせるね！</p> </div> <div data-bbox="331 1440 1305 1514" style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>水を見つけ出し、宇宙兄弟へ伝えよう</p> </div> <div data-bbox="236 1541 831 1581" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 10px 0;"> <p>どうすれば水よう液を見分けられるか考えよう</p> </div> <p>○既習したことを基に、炭酸水(A)、アンモニア水(B)、食塩水(D)、塩酸(E)、石灰水(F)の5つの水溶液、水(C)を見分ける方法を考え、発表する。 「石灰水は二酸化炭素を通すと白く濁るから分かりそうだね。」</p> <div data-bbox="236 1727 1118 2033" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>③<b>友達の意見をふまえ、水を見つけ出すのに効果的だと思う実験</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「水よう液に息をふきかける」…石灰水が息の中の二酸化炭素で白くにごるから分かると思う</li> <li>・「水よう液を熱する」…食塩水と石灰水は白いものが残ったから見分けられそう</li> <li>・「水よう液をふる」…炭酸水がシュワシュワして分かりそう</li> </ul> </div> <div data-bbox="1145 1933 1437 2000" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>第7、10時と関連</p> </div>

実験方法を考える子どものふり返り (第1時)

①を~~ら~~きか~~ける~~こと~~で~~石灰水~~だけ~~を~~確~~定~~して~~み~~よ~~け  
~~ら~~れる~~か~~い~~と~~思~~っ~~た。熱~~す~~ること~~に~~よ~~っ~~て、食塩水は  
 食塩~~か~~の~~る~~け~~と~~、他~~の~~の~~は~~、残~~ら~~ない~~場~~合~~が~~あ~~る~~か~~も~~  
 し~~れ~~ない~~の~~で、熱~~す~~る~~の~~は~~あ~~る~~程~~度~~分~~か~~て~~き~~た~~後~~か~~い~~い~~い  
 の~~か~~な~~と~~思~~っ~~た。

→水を見つけ出すために実験をしていく中で、自分の思考の変化やつながりが分かるように、初めの段階での考えを書いておく。次時からの実験で、ここで出た実験方法の中から、よりよいと思うものを児童が選んで実験していく。

○次時からは実験を行い、水を見つけしていくことを知る。

2 水よう液に二酸化炭素を通して見分けよう

○水溶液に二酸化炭素を通して白く濁るものを調べ、Fが石灰水であると特定する。

3 水よう液を熱して見分けよう

○水溶液を熱して白い固体が残るものを調べ、Dが食塩水であると特定する。

4 Aの水よう液のあわの正体を調べよう

○Aに溶けた気体を石灰水を通して白く濁るか調べ、Aが炭酸水であると特定する。



水溶液を熱して調べる子ども (第3時)

④①実験をして宇宙兄弟に伝えられるようになったこと

②まだ分からず伝えられないこと

③これから試してみたい実験

第2時：①二酸化炭素を通して白くにごったFの水よう液は石灰水だと分かったよ

②F以外の水よう液や水は変化がないので見分けられない

③水よう液を熱することで、食塩水が分かるのでやりたい

第3時：①熱するとDとFに白い固体が残った。Fは石灰水だから、Dは食塩水と分かったよ

②A、B、C、Eはまだ見分けられなかったなので、水がどれか分からない

③Aにあわが見えるから、ふったらシュワシュワして炭酸水だと分かりそう

第4時：①Aのあわは石灰水で白くにごったから二酸化炭素。だからAは炭酸水だよ

②まだB、C、Eのどれが水かは分かっていない

③今までに習った実験で見分けるのはもうできないと思う新しい方法が必要



3つの項目でふり返り、シートに記入する子ども

→ 3つの視点で振り返ることで、課題解決に向けての現段階を整理し、次の実験に向けて見通しをもつことができる。また、前の振り返りで書いたことが、その後の授業で解決したときなどは矢印で線をつないでいくことで、自分の思考の変化やつながりを読み取れるようにする。

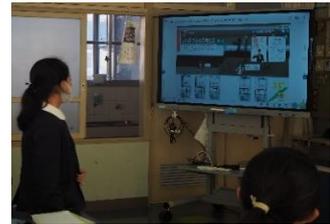
矢印での思考のつながりを意識した子どもの振り返り (第3、4時)

<p>〈宇宙兄弟に伝えられること〉</p> <p>熱したら食塩水が分 かりました。Fは白 い。Fは 石灰水が分かった。F は食塩水です。</p>	<p>〈まだ分からず伝えられないこと〉</p> <p>新しく石灰水では ないこと分かったけど まだ分からないことだ らけで水が分らない。</p>	<p>〈次にためてみたいこと〉</p> <p>食塩水が分かって 残り4つになった。Fは 分かってみると炭酸水が 分かった。Fは分かったから 分かってみたい。</p>
<p>〈宇宙兄弟に伝えられること〉</p> <p>石灰水と炭酸水が分 かりました。炭酸水はA なのでB、C、Eのど れかです。</p>	<p>〈まだ分からず伝えられないこと〉</p> <p>B、C、Eのどれかか 水なのは分かったけど 見を目標としてやば り実験をしてみないと 分からない。</p>	<p>〈次にためてみたいこと〉</p> <p>残りはアンモニアと 塩酸と水だけ。今 までのやり方だと、 分らないものだから新 しい実験をしないと分らない と思う。その方法を考えてみたい。</p>

5

これまでの実験で分かったことを整理し、これからの実験に必要なことを考えよう【ふりふり】

- 3つの実験を振り返り、見分けることができた水溶液と、まだ見分けられていない水溶液に整理する。  
「Aが炭酸水、Dが食塩水、Fが石灰水だと分かったよ。」  
「まだB、C、Eの水よう液が見分けられていないよ。」
- 宇宙兄弟からのメッセージ①を読み、酸性・中性・アルカリ性に分けるにはリトマス紙を使うことを知る。



見分けた水溶液の発表をする子ども

〈メッセージ①〉 朝日小のみんな、こんにちは！リュウゼツランに元気がなくなってきた…急いで水を見つけたい！  
 そういえば、みんなに言い忘れていたことがあったんだ！水溶液は、酸性・中性・アルカリ性の3種類に分けられるってはじめに勉強したよね。  
 炭酸水と塩酸は酸性、水と食塩水は中性、アンモニア水と石灰水はアルカリ性だよ。どうやら、何性かを確かめる超便利な道具があるらしい！それを「リトマス紙」って言うんだって！！ここにはリトマス紙がないから、みんなにお願いするしかない。リトマス紙を使って調べ、引き続き水を見つけるために協力してほしい！

⑤ これまでの実験や振り返りを通して分かったこと、これから調べていきたいこと

- ・ もう調べられないと不安になったけど、「リトマス紙」を使えば酸性・中性・アルカリ性を区別できると分かった
- ・ まだ分かっていない水よう液は性質がすべてちがうので、リトマス紙を使えば一気にすべての水よう液と水が見分けられると思う
- ・ 早くリトマス紙で実験して水を見つけて宇宙兄弟に伝え、リュウゼツランの花を咲かせてあげたい



第5時の板書

6 水よう液をリトマス紙につけて見分けよう

○それぞれの水溶液をリトマス紙につけて性質を調べ、Bはアンモニア水、Cは水、Eは塩酸であると特定する。

①実験をして宇宙兄弟に伝えられるようになったこと

②まだ分からず伝えられないこと

③これから試してみたい実験

① リトマス紙をついたら、Bはアルカリ性だからアンモニア水、Cは中性だから水、Eは酸性だから塩酸だと分かったよ。水を見つけることができたから安心してね

②すべて見分け、水を見つけたので分からないことはないよ

③水だと証明する実験があるならやってみたい



リトマス紙をつけて調べる子ども

7 水を見つけ出したことを宇宙兄弟に伝えよう【ひろふり】

①宇宙兄弟への報告やアドバイス、実験を通して学んだこと

- ・二酸化炭素を通したり、熱したり、リトマス紙を使ったりして調べたらCが水だと分かったよ。リュウゼツランにCをあげれば、元気になって花が咲くよ
- ・Aの炭酸水には二酸化炭素の気体がとけているから、ふったりゆらしたりしないで、動かさずに入れ物にふたをして保管してね
- ・リトマス紙は性質を簡単に区別することができるから便利だと思ったでも、リトマス紙がなくてもこれまで習ったことを生かして実験することができたので、これからも習ったことを生かせるようにしたい

第1時と関連

8 ○宇宙兄弟からのメッセージ②を読み、塩酸はアルミニウムや鉄を溶かす可能性があるを知る。

〈メッセージ②〉 朝日小のみんな、こんにちは！報告を聞いたよ！水を見つけ出してくれてありがとう。

水をあげたら、リュウゼツランが元気を取り戻し、立派な花を咲かせたよ！国際宇宙ステーションのみんなも喜んでくれた！朝日小のみんなのおかげです。本当にありがとう。

…ところで、みんなに聞きたいことがあるんだけど…

水よう液をアルミニウムの容器に入れて保管していたんだけど、塩酸の容器だけ穴が開いてしまったんだ。急いで近くにあった鉄の容器に入れかえたけど、また穴が開いちゃうんじゃないかって心配なんだ。このまま鉄の容器に入れておいて大丈夫かな？

それから、塩酸の中にアルミニウムや鉄がとけちゃっていたらどうしよう。純粋な塩酸じゃないとダメなのに…。とけちゃったものを取り出すことはできないのかな？

2つの塩酸のナゾを解き明かしてほしいんだ！前回大活躍したみんななら、きっと解決してくれると信じている！

塩酸のナゾを解き、宇宙兄弟へ伝えよう

塩酸に金属を入れて調べよう

○塩酸にアルミニウムと鉄を入れて調べ、金属を溶かすはたらきがあると分かる。

9	<p><b>塩酸を熱してアルミニウムが取り出せるか調べよう</b></p> <p>○塩酸を熱して出てきた固体を調べ、アルミニウムではないため取り出せないと分かる。</p> <p><b>①実験をして宇宙兄弟に伝えられるようになったこと</b>  <b>②まだ分からず伝えられないこと</b>  <b>③これから試してみたい実験</b></p> <p>第8時：①アルミニウムはとけて、鉄はあわが表面についたよ。          ②アルミニウムを取り出すことができるのかは分からないよ。          ③取り出すには、食塩水のときのように熱するといいと思う。</p> <p>第9時：①アルミニウムがとけた塩酸を熱すると白い固体が出てきたけれど、アルミニウムじゃなかったから取り出せないよ。          ②塩酸のナゾが解けたからもうすべて伝えられるよ。          ③塩酸から取り出した白い固体の正体を知りたい。</p>	 <p>塩酸に金属を入れて様子を見る子ども</p>
10	<p><b>塩酸のナゾを解いたことを宇宙兄弟に伝えよう【ひろふり】</b></p> <p><b>①宇宙兄弟への報告やアドバイス、単元を通して学んだこと</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・塩酸はアルミニウムも鉄もとかしてしまうから、ガラスなどの容器に入れかえた方がいいよ。</li> <li>・塩酸にとけたアルミニウムは、取り出すことができなかったよ。新しい塩酸を使ってね。</li> <li>・自分たちで解決方法を考えて実験し、ナゾが解けたのでうれしかった。水よう液の性質も学べたので、これからも楽しく学んでいきたい。</li> <li>・ふり返しシートを使って勉強したことで、前回やったことを読み返して次に生かすことができた。特にふりふりやひろふりでは、いつ何を学んだのかがすぐに分かったので書きやすかった。</li> </ul>	 <p>宇宙兄弟へ報告文を書く子ども</p> <p>第1時と関連</p>

## 5 成果と課題

- 「水よう液のナゾを解いて宇宙兄弟に伝えよう」という単元を貫く課題を設定して学習を進めたことで、宇宙兄弟を助けるために水溶液のナゾに迫りたいという意欲をもち続け、積極的に実験方法を考えて話し合ったり、学んだことをふり返ったりして、宇宙兄弟にメッセージを書くことができた。
- ふり返しシートの活用として、前時のふり返しで書いたことがその後の授業で解決したときに、ふり返りを矢印で線をつないでいったことで、自分の思考の変化やつながりがひと目で分かり、ふりふりやひろふりの際に見返して整理しながら書き進めることができた。
- 実験を行ったときは3つの視点でふり返りをしたが、一問一答形式に近くなり、書く内容がどの児童も同じような内容になってしまった。文章を書くことが苦手な子どもにとっては書きやすいが、自分の言葉でふり返りたい子どもにとっては書きにくくなっていた。また、書き込む欄が小さく、簡潔にまとめないと枠からはみ出てしまい、読み返しにくくなっていた。

## Ⅲ 研究の成果と今後の課題

### 1 研究の成果

#### (1) 単元構成を工夫し、自ら進んで学習したいという思いを高める

学習の流れをパターン化したり、子どもたちの実態に合わせた支援教具を用意したりすることで、無理なく活動することができ、子どもたちの自信につながった。

低学年においては、子どもたちの興味関心を高めるために、物語形式で単元を構成し、わくわく感をもって意欲的に学習に取り組んだり、物語が進むことに達成感を感じたりしながら学習することができた。

中高学年では、単元を貫く課題を設定して常に意識しながら単元の学習を進めることで、意欲を持続させながら、より深く学ぶことができた。

子どもたちの実態に合わせて、意欲をかき立てるような単元構成を工夫したことで、自ら進んで学習したいという思いをもつことができた。

#### (2) ふり返りの視点や書き方を工夫することで、自らの変容や学習・生活とのつながりを意識したふり返りができる

読み取りの場面では、その時間の話し合いの中で、読みが足りなかった部分をふり返りで考えたことで、登場人物の思いを読み深めることができた。ふり返りの助けとなるよう、短い言葉やイラスト、具体物による視覚的な支援を行うことで、意欲的にふり返りに取り組むことができた。また、単元を貫く目標を意識して、毎時間のふり返りを行うことで、「やりたい」という思いをもって、次の時間を楽しみにしている子どもたちの姿が見られた。

「ふりふり」を行い、単元の目標に対してできるようになったことと、まだできないことを整理したり、これからの学習に必要なことを整理したりできた。国語の学習では、プレゼンテーションやポップ作りに必要な表現の工夫を「ふりふり」でふり返ることで、他の作品をより深く味わえるようになった。低学年では「ふりふり」の直後に、これまでの学びを生かす場面を設定し、自己の成長を実感することができた。

ふり返りシートを活用し、関連のあるふり返りの記述を矢印で結ぶことで、考えの変化や学習内容のつながりをひと目で捉えることができるようになり「ひろふり」の際に、学習の関連を意識して発言することができた。

### 2 今後の課題

単元を貫く改題を設定し、単元全体を意欲的に取り組めるように仕組んだが、ふり返りの書かせ方が難しく、意図に反して、課題解決に生かしにくいふり返りの記述が見られた。また、興味関心を高めることはできたが、個々の興味関心に合わせて学習を進めることが難しく、学習内容を制限してしまったことで、追究意欲が下がってしまった子どもがいた。「ふりふり」と活用場面を同時に設定することで、子どもたちの意識は高まったが、時間的配分がかなりタイトになってしまった。

子どもたちの追究する力を高めるために、ふり返りが有効であったかの検証方法や、ふり返りによって、学習内容どうしの関連を明確にし、生活に生かせるものとしたかどうかなど、今後も研究を進めていきたい。

## お わ り に

本校は、昨年度より「自ら学びを追究する子どもの育成～ふり返りで学びを見つめ直す活動を通して～」をテーマに授業づくりを進めてきました。

教師がどのようにふり返りの視点を示したらよいか、本時の学びを深めるため、次時の課題へつなげるため、考えを広げるためなど、目的に応じてさまざまな学習のふり返り方を模索し、本校のスタイルをつくっていく一年でした。日々の授業を見ていると、少しずつですが、これまでに学習したことや自身の生活経験を生かしたり、自身の考えの変化に着目して思考したりする子どもたちの姿が見られるようになりました。

子どもたちが授業のたびに書くふり返りから新たな学習課題を見つけたり、学びの連続性を意識したふり返りをしたり、ふり返りをもとに友だちと関わり合いながらさらに学びを深めていくという研究構想は、本校の研究への取組の集大成とも言えるものだと考えています。今回の実践で得られた手応えを生かし、なおかつ、より子どもたち主体の授業となるように研究を積み重ね、今後も目指す子ども像の実現に向けて研鑽していきたいと思っています。

最後になりますが、研究実践にあたり、適切なお指導・ご助言をいただいた愛知教育大学教授 中村僚志先生に深くお礼を申し上げますとともに、この研究紀要をご一読いただき、今後の研究の指針となるよう忌憚のないご意見・ご指導がいただければ幸いです。

### 研 究 同 人

(主題推進委員委員長：◎ 主題推進委員：○)

校 長	榊原 和憲	教 頭	二宮 正樹
教務主任	前村 恵	校務主任	外山 賢一
○渡辺 神人	久田 明莉	近藤 香那	○橋本 陽子
宮崎 泰季	鈴木 智大	竹内 直人	○大嶋 由加
石川 正孝	山本 陽子	牧野 晃大	○吉牟田幸子
岡本 朋実	森下 謙太	◎井村 国広	原田 聖裕
犬飼 優菜	○三浦 英生	○田村 直之	都築 杏奈
平野 里奈	林 静子	○長尾 美佳	中野 真悟
小川美智子	久保 保子	大宮 恭子	神田 裕香
三浦万由子	水野いつき	磯谷 知夏	湊 春奈
土井 琴美	宮田 典子	田畑 祥子	